



P T A 新聞 おきなわ

発行
(一社) 沖縄県 P T A 連合会
〒900-0002
那覇市曙2-26-27
T E L (098) 867-3582
F A X (098) 867-0309
責任者 宮城 光秀



第57回沖縄県PTA研究大会那覇地区大会

P T A が家庭・学校・地域の架け橋
ハイサイ！ハイタイ！笑顔を広げよう

平成二十八年一月二十四日(日)「PTAが家庭・学校・地域の架け橋」ハイサイ！ハイタイ！笑顔を広げようを大会スロロガンに、第五十七回沖縄県PTA研究大会那覇地区大会が午前中那覇・浦添地区内会場で七分科会、午後から浦添市でたてホール大ホールで全体会が行われました。県内離島も含め約千六百人の会員が集い、朝早くから各会場で熱心な討議が行われました。全体会では大会行事に引き続き、長田徹氏による記念講演が行われ、大会宣言が決議されました。

全体会

浦添市立港川中学校吹奏楽部の素晴らしいソロコーダー演奏のアトラクション

で幕を開け、開会式には浦添市長はじめ、ご来賓の方々のご臨席、ご祝辞等をいただきました。宮城光秀会長は「子ども達の安心・安全な教育環境をつくるには家庭・地域・行政が連携を密にした取り組みが必要、PTAも保護者同士の横の連携を深めながら、親が孤立することなく支えあっていくことが肝要」と挨拶しました。記念講演では、文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官の長田徹氏が「今こそ、学校、家庭、地域の絆を深めよう！」を演題に、学力を上げていくために必要と思われる家庭教育のあり方、キャリア教育や被災からの復興や避難所運営に貢献した地域連携の重要性等について講演しました。

所感

記念講演の中で長田氏が、東日本大震災の被災を

経験、調査をし分かったことをお話くださいました。①学校と地域が日頃から連携を密にしている地域の避難所運営は、トラブルがなく円滑だったこと、②大人たちを子ども達が励まし、助け、機転をきかせた行動力をみせた、というエピソードは会場中を感動の涙で埋め尽くしました。「地域との連携が自分で考え行動できる人を育む」のだと深く心に刻み、子ども達にとって「大好きで、お手本になる地域の大人」をめざして努力していく所存です。(新垣卓苗)



第二分科会

健全育成と地域連携

末吉 建作

浦添市でだこホール小ホールに於いて、「安全で心身ともに健全なPTA活動を考えよう」を討議題とし、南城市立大里北小学校PTAと宮古島市立佐良浜中学校PTAが基調提言を行った後、討議を進めました。

大里北小学校PTAでは、校区内に建設資材の企業があり、狭い道ながら交通量が多く危険ということで、地域企業とPTAで通学時の立哨と下校時のパトロールを行い、自治会とPTA

で安全マップ作るなどの安全対策を行ったというのが中心の内容でした。

佐良浜中学校PTAでは、非行などの問題のある生徒や、将来に夢が持てず学習意欲の低い生徒が多いという課題があるなかでのスタートだったと言う。

3年前に「親父の会」を発足させ、授業中の校内巡回や夜間巡視を行うほか、「ふれあい球技大会」を開催した。当初、関心が薄かったが、女子生徒が参加するようになり、続いて男子も加わり、大人との距離を縮めることに成功した。

学習面も、「放課後の学びの時間」を必ずみんなやるように、校長が直接各学級を回って呼びかけをした。そこでPTAも職員も一丸となって、取り組みをしていった。これが段々と今、根付いているそうです。

もともと地域連携が強、「追い込み漁」や「魚の解体」の体験学習に地域の人が深く関わっており、高校



高校入試の際、家族で弁当を囲む



入試の際に、家族で弁当を囲む風景も、島全体で子どもの成長を願う気持ちの表れとして、感心しました。

指導助言者のグッジョブおきなわプロジェクト代表の喜屋武裕江氏の助言より、「夢は変わるもの。大事な

のは夢を持つ持たないではない。子どもに夢を持たせようとする前に、大人が夢を持つ。キャリアや生き方や目標を持つてほしい」「テレビに出てくるPTAロー

ではなく、隣のお兄ちゃんお姉ちゃんを憧れにする。」この2つの言葉から、大人がどうしたらよいか、地域連携を考えるきっかけになると思いました。

第五分科会

広報活動

比嘉 志麻子

「会員意識を高め連帯感を強める広報活動を考えよう」をテーマに浦添市でだこホール市民交流室で行われました。

宮城小学校・生徒による軽快な演奏のアトラクションで始まり、琉球新報社編集局次長兼報道部長の松元剛氏に「保護者、学校、子どもたち、地域がマッチブル(つながる) 広報活動の意義(基調提言)」をしていただきました。

松元氏は自身のPTA活動時代の話をしながら、いつの時代でも保護者、子ども、学校、地域がマッチブル(つながる) 意識を高めよう。また、PTA広報紙の意義、狙いについて学力向上の取り組み、特徴ある学習活動、学校が好成绩を収めたニュースの共有、地域

(自治会など) に関わる「平和学習」「地域清掃活

動」「地域を学ぶ活動」などは積極的に紙面化していくことが広報紙の役割に大いに繋がっていくことを意識してほしいと語られました。

次に本年度沖縄県PTA広報紙コンクールにおいて、最優秀賞に選ばれた西原町立坂田小学校と豊見城市立伊良波中学校の実践報告が発表されました。

二校の共通点は決まり文句があり、「無理なく楽しく(坂田小学校)」、「わかきあいあいと楽しく(伊良波中学校)」と部員一人ひとりが楽しくPTA活動を行える環境づくりが整っていることを感じました。また、「題字を子どもに書いてもらう(坂田小学校)」、「(四月号) 教職員紹介(伊良波中学校)」など、それぞれで工夫されているところが良い広報紙づくり繋がっているなと感じました。

最後にパネルディスカッションが行われ、一人ひと



りが率先しPTA活動に取り組む、得意分野を活かしながら情熱を持って作るこゝとが魅力ある広報紙づくりの近道であることを確認し次への広報紙づくりに役立ててほしいとエールを送りました。充実した語りであつという間の分科会でしたが、「さらに自身に磨きをかけ頑張ろう！」と決意の一日となりました。那覇地区大会に関わった皆さま、大変寒い一日となりましたが、最後まで有難うございました。



家族で決めよう適切な使い方

スマホおきなわルールづくり シンポジウム

スマホ 与える前がベスト 親子で考えよう 大切なこと

去る2月14日、沖縄市与儀の県立総合教育センターに於いて、琉球新報社主催で開催された。沖縄県PTAも共催となっており、多くの関係者が参加した。

進級・進学を機に、スマホを手にする児童・生徒が増えることから、年度末のこの時期にシンポジウムが開催されることとなった。



仲西中の生徒たちが学校生活でのスマホ事情を演じる

登壇者は、屋良 淳氏（県警本部少年サポートセンター課長補佐）、富名腰 義裕氏（海邦病院小児科部長）、加藤祐介氏（愛知県刈谷市立雁が音中学校校長）、モバイルプリンス氏（オフィシシマブクロ）、現役の生徒の立場から、山内 夏さん（普天間高校1年）、安慶名龍貴さん（仲西中学校2年）、コーディネーター、

司会として、宮城 光秀氏（県PTA連合会会長）、仲村利江氏（県特別支援学校PTA協議会会長）以上8名で、様々な分野・立場から意見を出し合い、3時間にわたり、議論を深めた。

SNS等で起こるトラブルについて説明があった。発信している側と受け取る側で、言葉のニュアンスに違いが出ることもあり、それをもとに関係が険悪になったり、最悪いじめに繋がったりする事案や、悪気はなかったが、友人の写真をツイッターに載せたために、物凄いバッシングに晒されたり、住居を特定されたりして迷惑をかけた事案、来たメールに関して、早く返信しないといけないという強迫観念に追われている事案などが紹介された。健康面からも、画面から発しているブルーライトの興奮刺激が眠気を奪っていることと、スマホに夢中になることで睡眠時間を減らしていることをあわせて、「時間泥棒」と小児科医間で言わ

れられており、ネット依存も、「デジタル・ヒーロイン」と言い換えられ、深刻さを感じた。対処としてのスマホの所持の完全な禁止にも弊害があり、大きくなってから、「デジタル・モンスター」を生みかねない。大切なことを列挙すると、

- ・ 本当に必要なかどうか
- ・ 完全な禁止ではなく、教育と制限の両輪で
- ・ スマホは親が子に、条件付で貸与したものである。
- ・ 親が管理する。（ペアレ

ンタルコントロール）

- ・ 約束を破った時は、契約を解除するなど、親ができることを行使すべき。（フティーフ・ジョブス談）
- ・ 寝室に持ち込ませない。
- ・ メディアからの情報を批判的に判断する。（メディア・リテラシー）
- ・ どう感じるか 相手を思いやる。 … 等々
- ・ 登壇者の高校生から「塾の後も少しの時間、スマホをさせて欲しい」と切実な意見もあった。

PTA会長さんへ 安全委員会より

平成28年度の安全会加入の手続きが始まります。

- ・ 共済契約申込書（様式1） **3月31日必着**
- ・ 共済金の納入 } **4月～6月30日厳守**
- ・ 名簿等必要書類の提出

ご案内、申請書類等と28年度版「安全会制度のしおり」は3月上旬に配布予定

※上記について期日が守られない場合は、4月1日から共済掛金が払い込まれた日までの間に発生した事故に対する共済金はお支払い出来ません。（適及保険一保険法第68条）

一般社団法人 沖縄県PTA連合会 安全委員会
〒900-0002 那覇市曙2-26-27
TEL : 098-867-8645 FAX : 098-867-0309

沖繩市立島袋小学校
校長 加島 幸治

昨今、県内の小中学校では、教師の授業力向上をめざし、授業改善の取組が充実してきている。その取組の成果は、全国学力調査においても徐々に表れてきており、今年度の小中学校では、算数Aと国語Bの問題で全国平均を上回り、中学校でも全国平均との差が着実に縮めているという結果が出た。その授業改善の根幹をなすものは、教師と児童生

木もれ陽

学びあい

徒・児童生徒同士の「学び合い」によるものであり、今後も各学校現場では、その取組をその一層充実させていくことが望まれている。

て話し合い、共に気づき、共に考え、共に学び合う学習プログラムである。このように、今後は、

「第三十八回中頭地区学力向上実践推進大会」が読谷村において開催された。その中で、「夢実現『家々なれく運動』親と先生と地域のまなび

合い（中頭版）ミニプログラム」が行われた。当日は、会場にいる参加者全員が二〜三名のグループに分かれ、「家庭学習へのかかわり」をテーマに、意見交換を行い、その後全体発表を聞き、互いに共有し合うというものであった。この夢実現「親のまなび合い」プログラムは、保護者が参加者同士で家庭教育について

学習の主体者である児童生徒を中心に据え、確かな学力、生きる力を育んでいくために、教師・保護者・地域も各々の立場から「学び合い」に努め、「協働」していくことが重要であると言えるのではないだろうか。

我が家の子育て

履物を揃えることから

宮古地区PTA連合会会長

友利 正治

我が家は、一男四女です。

長男が小学校に上がるまでは、仕事中心で、休日もなく働いていましたので、子育ては全く妻に任せっきりでした。

PTA活動は、子どもが日頃お世話になっているので、参加はしていました。活動を通して、少しずつ子

育てに関心が出てきたのが、私の子育ての始まりでした。

しかし、今までやって来なかったで、妻には今さらと思われてもおかしかったです。

私は、何から始めようかという考え、履き物を揃えることを、子どもたちに身につけて欲しいと思い、私自ら子どもたちが見ているところで、ひたすら揃え始めました。時間はか

かりましたが、今では、私を始め、子どもたちも出来るようになったと思います。

それから、家では仕事の話はしないようにしています。そして、弱いものには優しくすること、弱いものいじめをしていたら助けることを言い聞かせています。

食事後は必ず、みんなのいる前で美味しかった（本当に美味しいですよ）と言つようにしています。

テレビやゲームは、見たい番組や、やりたいゲームを時間を決め行っています。その前に約束事があります。宿題と家の手伝いをする事です。

うちの子もたちは、家が好きでほとんど外出せず、家で兄妹仲良く遊んでいます。それを見ているととてもうれしい気持ちになります。子どもが大きくなるに連れて、私たちも一緒に成長しているように思います。

子どもたちと妻には感謝しています。これからも兄妹仲良く成長してくれることを願っています。

全国協議会会長賞
おめでとう！

「早寝早起朝ごはん」全国協議会会長賞
「ねるまへのおやすみぎゅっはいいきもち
一日のじょうびみたいだな」

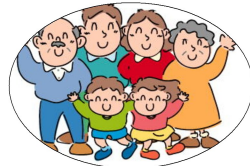
嘉手納町立嘉手納小学校1年 我那覇 宗基

平成28年3月30日（水）に文部科学省において表彰式が行われます。

平成27年度「楽しい子育て全国キャンペーン」
「家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ」三行詩コンクール
（小学生の部 全国応募総数83859作品）

裏方一番

第15回



おはようハイタッチ交流八年

宮古島地区 奥濱 実さん

「おはようございます。ハイタッチ！」と子ども達



とのあいさつ運動は、八年間となりました。朝早くから子ども達と向き合います。子ども達は「また、今日も奥濱さんに会えました」と安心の笑顔をはこぼせま

す。朝のあいさつ運動を始め、たきっかけは、教員退職後「地域の子どもの未来につながる支援を」との思いからだと話します。私自身も放課後教室で五

年ほど奥濱さんと一緒にボランティアをやらせて頂きました。その中で、子ども達を惹きつけ、楽しくおもしろい世界にいきなない魅了されていき、どきどきわくわくで、顔中が生きいきしていく子ども達の様子を拜見してきました。一緒に歌をリズムミカルに歌えるように導いたり、手作りのおもちゃを想像力豊かに制作されたり、絵本の世界に入

れるように声の高低で楽しませたり、ゲームも愉快でおなかを抱えて笑ってしまふほどの指導力です。次回の放課後教室を待ちわびる子ども達の声も弾みます。このような子ども達とのやりとりが、朝のあいさつ運動でもみられます。

(宮古島市北小学校付近の宮古島地区通員 大川 艶子)

【第一九回】我が校区の文化・歴史遺産紹介



学校文集40年・たかし森 (さん)

恩納村立山田幼小中学校の敷地の裏手に「たかし森(さん)」があります。そこは、自然石と自生植物を有した周囲より小高い場所、昔は子ども達の冒険や遊びの場であったとのことで、時が経っても変わらずそこに存在する山田区及び山田校の「シンボル」

「モニユメント的存在の場所です。その名称がそのままついた学校文集「たかし森(さん)」は、昭和五十年(一九七五年)に創刊され、各年度代々受け継がれ発刊されてきた歴史ある文集です。その内容は全園児・児童・生徒が、その年度の自身の発達段

階に応じた作品(図画、版画、絵日記、作文など)を一冊にまとめたもので、毎年、在籍児の各家庭に一冊ずつ配布され、歴代の文集は、学校図書館で数冊保管し、閲覧できるようになっています。この文集の一番の愛読者は子ども達です。図書館で、自分の父や母、

おじ、お婆の作品を見つけて、読んだことを家庭で話題にしたり、同級生や先輩、後輩の作品について話したりと熱心に見ているようです。今年度で四十一年目を迎える学校文集「たかし森(さん)」は、他校にはあまりみられない稀な取り組みであるとのこと



で、学校があり続ける限り存続して欲しい山田校が誇れる文化・歴史遺産です。(新垣 早苗)



浦添市勢理客

ポランティアチームの名前は「ティーンズ」。8人の中学生たちによる偉業である。
神森小学校に隣接する「森の子児童センター」の職員呼びかけで、このメンバーは集まった。

避難マップを作成
平成26年に発足し、1年目は、ポランティアについての学習や福祉体験学習などを経た後、実際に歩いて地域散策を行い、地元の方の声を聞いて、危険箇所を調べ上げた。それを基に、沖縄国際大学の稲垣先生や学生の指



勢理客避難マップ
危険箇所や避難経路が、分かりやすく色分けして、記されている。



避難所でアンケートを取るメンバー

中学生ポランティアチーム 県から表彰
沖縄県福祉のまちづくり賞 奨励賞

2年目は、更に多くの団体を巻き込んで、津波を想定した避難訓練を計画・実行した。生徒たちは、案内のチラシも自分たちで作り、地域の方の家を訪ね、チラシを手渡し呼びかけた。お年寄りや体の不自由な方の避難方法もみんなが考え、結果、約4百人の参加があった。このことが評価されている。このことが評価されている。このことが評価されている。

導を受け、危険箇所や避難経路を記した避難マップを完成させた。道路のひび割れなど車椅子で通るときの注意などがあり、障がい者の避難も意識したものになっている。
2年目は、更に多くの団体を巻き込んで、津波を想定した避難訓練を計画・実行した。生徒たちは、案内のチラシも自分たちで作り、地域の方の家を訪ね、チラシを手渡し呼びかけた。お年寄りや体の不自由な方の避難方法もみんなが考え、結果、約4百人の参加があった。このことが評価されている。このことが評価されている。

森の子児童センターの存在も忘れてはならない。幼・小・中・高の全ての世代の子どもたちが、スポーツやレクなどいろいろな目的で出入りしている。その子ども達と地域を繋げたのはこれからのモテルケースとなるだろう。大城館長と職員の功績は大きい。
(末吉 建作)

新しい形の地域連携
森の子児童センターの存在も忘れてはならない。幼・小・中・高の全ての世代の子どもたちが、スポーツやレクなどいろいろな目的で出入りしている。その子ども達と地域を繋げたのはこれからのモテルケースとなるだろう。大城館長と職員の功績は大きい。
(末吉 建作)



平成28年3月15日 県庁舎で授賞式の後、森の子児童センターの大城館長（中央）と一緒に撮影

豆知識 今回の避難訓練の炊き出しでは水でも戻せるアルファー米が使われた。

編集後記
毎年、この時期になると、この1年を振り返り、次年度の目標を立てようという思いが強まります。皆さんにとって、今年はどうな1年でしたか？PTA活動を通して、学んだ数多くの体験や人との出逢いを大切に、ホットな情報を1つでも多く、沖縄県のPTAの皆様に発信できるよう努力していこうと思います。最後に、今年度の発行に際し、ご協力頂きました皆様に、心から感謝申し上げます。
(伊波郁美)

広報委員：比嘉志麻子 (島尻) 末吉 建作 (那覇)
伊波 郁美 (那覇) 新垣 早苗 (中頭)
通信委員：仲間 里枝 (国頭) 大川 艶子 (宮古)
鬚川 美穂 (石垣)

加入してよかった！みんなに勧めよう！
保護者の皆様の強い要望から生まれた
沖縄県 PTA 連合会推薦の
『小・中学生総合保障制度』
(こども総合保険)
AIU保険 Member of AIG =引受保険会社=
A I U 損害保険株式会社 沖縄支店
=保障制度に対してのお問い合わせは=
◆小・中学生総合保障制度事務局◆
(あい保険工房内)
住所 : 〒901-2126 浦添市宮城 2-24-2
TEL : 098-878-0025